

秋に20周年セミナー

べんととう
振興協会



安田 定明会長

日本べんととう振興協会は5月24日に東京都千代田区の憲政記念館で創立20周年・公益社団法人発足第1回総会を開催し、12年度事業計画・収支予算など4議案を原案通り可決した。

今年度は、日本べんととう工業会の創立から20周年を迎え、秋口には記念のトップセミナー開催を検討している。また、食品微生物検査士制度の1級および2級は会員企業はじめ大手食品企業からも好評で、衛生管理の向上や食中毒の防止に役立っていることから、

同制度を拡充して3級を創設し、さらに衛生管理の普及啓蒙を行っていく。

安田定明会長は今夏の電力不足の問題について「協会から農林水産省に『計画停電等の適用除外・制限緩和措置』の要望をしている。かつてオイルショックの時には、食品製造業は病院などと同様に電力の制限措置から適用除外されたと記憶している。今年もその例にならうように協会として活動していく」と、切実な問題である電力問題への協会の対応を述べた。

来賓の山口靖農林水産省総合食料局外食産業室長は「中食産業の市場規模は8兆円に上り、国民の豊かな食生活に貢献している。東日本大震災では、中食産業

はフードチェーンのプラットホームを担う重要産業であるということを感じさせられた。農水省は第一次産業が生産したものをしっかりと生産者に届けることや海外戦略も含めた食品産業の将来ビジョンを3月に策定した。産業の発展に一層の貢献を」と述べた。

懇親会には約200人が参加した。海江田万里衆院議員、小川敏夫法務大臣があいさつし、石原英JRAシステムサービス取締役会長の乾杯が始まった。政界からは石破茂氏、前原誠司氏、金田勝年氏が駆けつけた。堀切功章キッコーマン食品社長が中締めを行い、さらなる産業の発展と消費者への安全・安心、安定供給を誓った。(福島厚子)

懇親会には約200人が参加した。海江田万里衆院議員、小川敏夫法務大臣があいさつし、石原英JRAシステムサービス取締役会長の乾杯が始まった。政界からは石破茂氏、前原誠司氏、金田勝年氏が駆けつけた。堀切功章キッコーマン食品社長が中締めを行い、さらなる産業の発展と消費者への安全・安心、安定供給を誓った。(福島厚子)